

テーマに対する委員からの主な意見の概要

【令和2年度 産業戦略本部（第1回）】

【テーマ】「新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響」、「がんばろう萩！地域経済活性化支援対策」について

【主な意見】

・支援制度に財政調整基金はあとどれだけ使えるかの。それによって、どの分野に振り分けるかを考えるということはどうか。優先をどのように考えるか。

（財政調整基金の取り崩しを行っているが、融資関係予算の財源として戻る部分や国からの支援等もあるので、ある程度の制約はあるが、そこだけにこだわらず、萩市の経済の傷ができるだけ少なくなるようにして、企業が維持でき、先の回復が望めるような環境にもっていけるようにするために何をすることが良いかという観点で考えをいただきたい。）

・お金を使ってただ乗り越えるだけでなく、その先に売上をあげるなりに使っていくべきだとは思いますが、守らないといけない業種もあると思う。

・どれだけ予算を投じたら守れるのか、優先順位を決めて対応することがよい。

（個別企業の財務状況を全て把握しているわけではなく、新型コロナの影響がいつまで続くかわからない中で、どれだけ予算を投じたら守れるかはわからないが、しなければならぬことは手探りでもやっている状況。）

・先週末から飲食店などが再開を始めたが、お客が戻ってこない厳しい状態。3密や外食をすることへの抵抗もあると思う。観光地であるがゆえ、難しい部分もある。

・この基準をクリアしたので安全だというガイドラインなどがあれば地域で経済がまわせるのではないかと感じている。（飲食業関係）中央会が、外食業の事業継続のためのガイドラインも出しており、そういったガイドラインのようなものを策定していただけるとありがたいと思っている。

・（市の）中小企業等チャレンジ補助金について、個人の飲食店で有効な使い方が分からない人も多くいる。他市の飲食店組合などはお弁当のタクシー配送など、市と連携した取組を行っている。食事のクーポン券を発行するなど申請して有効に使いたいと考えている。

・まずは、感染者が萩で出ていない状況が市民の努力もあり良いことだと思う。

・要望にスピーディーに対応していただき、感謝を申し上げたい。宿泊助成について、萩市の取組は大変注目を浴びたので、今後、第4段、第5段、GoToキャンペーン等でもよろしく願いたい。

- ・(市の) ハイブリッド型給付事業やチャレンジ補助金などとても良いアイデアだと思う。ただ単に10万円給付するだけでなく、自由な発想で使え、事業者も事業を継続していくために効率化や感染防止等を考えるきっかけにもなる。良い制度なのでPRをしっかり。
- ・国や県の制度などもあり複雑なため、研修会などを既に3回実施した。さらに行う予定。
- ・社会保険労務士などの支援もあり、知らない方もいるので、私も宣伝していきたい。
- ・まだ早いかもしれないが、終息した後、GoToトラベルなど国の支援策などもしっかり踏まえて、8月、9月頃になると思うがV字回復のための萩市の観光支援策を打ち出していただきたい。

(旅館や飲食店からの要望について、家賃支援の話があったが、国も家賃含めた支援の動きがあるなか、萩市のハイブリッド型給付金についても、家賃を含めた固定費にも自由に使えるように、要望に応じてアイデアを出したものの。)

- ・農業も影響を受けており、例えば、お酒の需要が減り、山田錦の作付けも3割減らした。
- ・道の駅休業の影響もあり、ファーマーズマーケットのお客は減少していない。
- ・売上上位は野菜であるが、通常にない手芸品、布マスクが上位に入るなどの状況も。
- ・柑橘などは開いている店舗に集中することで値崩れした。相島スイカの出荷も始まったが市場からの行き先がない状況で安値に、大根もこれからは心配である。出発式もなくなったため、PRする機会が減少したことが一番困っており、少しずつでも販促活動の再開を進めたい。

・道の駅はゴールデンウィーク期間を含め12日間休業、売上は昨年比で3月はマイナス20%、4月はマイナス60%。5月7日から営業再開し、人出はマイナス30%、売上はマイナス50%。県外からお客が来ていない状況。お客の9割が県内であり、県外も広島、福岡の近県でほとんど。販促をもっと高めていきたい。そのために、広告助成、広報にかかる助成を考えていただきたい。観光協会の広告助成の制度などもあるが、今、県外は難しいので、当面は県内山陽側に向けて行い、収束(終息)したら近県など少しずつ宣伝を広げていきたいと考えている。

・あとは、WEBの整備、ふるさと納税などにより生産者や事業者の方がネットを通じて販促できるような仕組みを増やしていければ良い。今回の対策には、そういった支援もあったと思う。また、萩ネットワーク、高校の同窓会などに情報提供し、萩の産品を買ってもらえるような工夫もしたら良いと感じている。

・(市の) 中小企業チャレンジ補助金について、複数の事業者が申請する場合、個社の確定申告の情報を共有するような形となり少しハードルが高いため、取扱いについて検討して

頂ければ。

- ・金融については3月初旬から第1弾として動いていただいております、第3弾でいっそう事業者の方を後押ししやすくなった。一方で借り入れをしたことがない事業者など躊躇しているため、金融機関からもプッシュしているところ。あとは事業者に向けて情報をどれだけ浸透させることができるか、商工会議所等からも事業所への連絡などしているが、行政からもしつこいほどの制度の周知をしていただけたら。

- ・活動が停滞しており、市民参画型支援があれば。例えば、クラウドファンディングや萩市民が市外の方たちにお中元を贈る際、送料の支援など、他県から来ていただくことが難しい状況下、こちらから萩のものを送ることを促進するなど、市民がわくわくするような市民を巻き込んだ企画なども面白いかと思う。

- ・他県で成功している事例はどんどん真似て、萩市で何ができるかを考えていくことが大事である。

- ・現在、商工会議所では、県の飲食店支援の申請を受けているが、市内で許可のある方が400弱、申請は約3分の1の受付があり、窓口での経営相談も受けている。

- ・国や県、市の支援策が多様で複雑なため、全ての事業者に情報を発信することが難しいが、ホームページや市の作成されたフローチャートなども使用しながら、活用できる最適な支援策を情報提供できるよう心掛けている。

- ・現在、小包等はお配りするのに時間をいただいている状況。関東、北海道、九州については遅れが出ているところもある。都市部へのマスクの送付などもあり、個数としては去年の5割増しの状況。

- ・市との関係では、特別定額給付金の申込書の発送などお手伝いをさせていただいている。提案として、申請書について年配の方などが困っている場合など、記載方法のひな形を送っていただければ、郵便局の窓口でお客様への書き方の支援などが可能。お客様にとっても萩市にとっても誤り等の二度手間が減り、効率が良く早い給付につながると思う。

- ・ホームページには掲載しているが、簡易保険等に加入されておられている方は3月から5月まで利息無しで1年間のみ貸し付けを行っているのでお役に立てば。

- ・窯業界では2月のイベントは来客者の減少、3月以降は百貨店などのイベントの中止や自粛、市内では萩焼まつりの中止、宿泊業の臨時休業などにより売上は減少。年間を通して5月が一番売上の高い事業者が多いため、多くの窯元で影響を受けている。伝統工芸展

等、美術館での作品発表の場もなくなっている。

- ・主な収益を卸売で得ていた窯元では、百貨店臨時休業やブライダル中止等により、休業補償でお休みして、生産をストップしているところも。萩市だけでなく業界の流通がストップし、このため、陶土販売や材料販売、木箱製造なども影響を受けていると考えられる。

- ・事業の継続は、給付金等の活用ができると思うが、生活必需品と異なり、自粛などが緩和されても萩焼の業界は回復が緩やかである。百貨店などが動き出しても、これまでのようになるのか不安はある。

- ・窯業界は対面販売するケースが多いので、これまでのようなイベントは難しく、このような状況で萩焼まつりも違う形式でできないかと考えている。バーチャル萩焼まつりの企画は良いと思う、1か月でなく、期間を区切らないで検討してほしい。

- ・萩焼業界は横のつながりが少ないため、他の窯元の状況がわからないのが現状。商工振興課に陶芸家協会の事務局があるので窯元に、今必要としているものは何かアンケートも実施してみると別の展開も見えてくるかも。

- ・お金の流れや生活が今後、すごく変わっていくのだろうと感じている。今も大切であるが、2年、3年と先を見ていくことも大切だと感じる。

- ・人とのつながりがスマホだよりになっているが、得意不得意があるため、チャレンジできる人とできない人の2極化が進んでいると思う。そのため、様々な支援のための伴走支援が必要と感じている。

- ・フードバンクのイベントでは、生活困窮者や時給で生活されるシングルマザーの方も多く、仕事がなくなって、経済的に困っているという生の声をお聞きする。

- ・販売先が必要な方、食料が必要な方、双方に支援が必要という状況であるが、ここに応援できる方の3者のつながり、循環といった、一方向でない支援が重要と考える。

- ・就学援助を受けている家庭では給食が栄養の頼りというところもあり、給食調理員の作った給食をタクシーで運ぶ取組をある団体に提案した。農家など生産者の方も給食調理員も助かる仕組みであると考えたが、これから給食が始まるということで、話は止まってしまったが、今後2波、3波があった場合には考えてほしいと思っている。

- ・3月中下旬からコロナ関係の相談が増えてきた。まず宿泊、そして飲食、第1次産業系と、どんどん相談が増えてきたという状況。特に個人事業主の方は家賃が払えなくなるなど、深刻な相談が増えてきている。

- ・政府、県、市のそれぞれの支援策について、日々情報が変わる中、情報を1事業主の方がキャッチすることが難しい現状がある。給付金と融資の制度を混在して考えられている

方も多いところも難しい要因と考えている。

- ・持続化給付金は今年創業した事業者への給付は行っていないと思うので、創業したばかりの方がコロナの影響で売上が伸びることが困難な状況もある。今後の支援策として、その方たちへの集客のための支援も考えていただければ嬉しい。

- ・事業者さん目線では、お金の面のサポートでなく、例えば飲食店がテイクアウトやデリバリーへ販路を拡大され、情報発信を行うための看板や幟を作ろうと思ったときに、萩市の景観の関係での申請などハードルが高いようである。取組を知ってもらうことにもハードルがあり、例えばこのような幟を市が支給するという施策などがあってもよいのかも。

- ・今年創業した方などは、集客をするイベントが難しいというところで、オンラインのセミナーなどを考えたときに、萩市内では、Wi-Fi 環境が整っているコワーキングなどが少ないため、できないことがある。今後、地方で働こうと目を向ける方も増えてくると思う。Wi-Fi 完備などサードスペースの環境整備をやっていくこともより良い。

- ・観光面だと、今後のキーワードとして安心・安全・健康。密な空間、例えばバスツアーなどの人々が集うサービスが見直されてくると思う。料理の部屋だしをする旅館、貸し切りなど1対1のプレミアムなサービスを安心・安全と結び付けて検討される富裕層の方が増えてくる。

- ・旅行会社でVIP客を抱え込むところもあるので、アフターコロナになった際には、スピード感を持って、囲い込みをできるような動きができるとうい。

- ・ECサイトでの販売にも力を入れていくと思うが、給付金10万の使い道、1年間美容室に行ける年間パスポートなど売れている。例えば、1年間10万円で1ヶ月ごとによりすぐりの商品が届く、サブスク的な提案もおいでませ山口館などを巻き込んで展開しても、萩市を応援する方に使っていただけるのではないかな。

(持続化給付金について、2019年に創業した事業者は算出方法の例が示され対象とするように、2020年に創業の事業者は対象とされていない。売上が50%減少とされており、国で定められている。テイクアウトの件について、PRの経費でも、今回の補助金では、ハードルを下げています。市内の事業者の方が取り組むことが大切という制度にしたい。また詳しくお話しをしますので、周知をお願いします。)

(看板に規制はありますが、幟・ポスター等について、色彩の規制は設けていませんので、チャレンジ補助金などを活用して作成されることは大丈夫です。)

- ・金融について、萩市においては他の自治体と比較し動きが速く、4月は特に相談も増え

ている。

- ・市によっていろいろな支援策があり、情報の整理をして市町別、支援内容別など、Facebook ページで紹介させていただいている。

- ・情報がなかなか届いていないということだが、他市の事例であるが、家賃補助の現金給付の相談に来られた方が、持続化給付金のことは知っていないなど、何が利用できて、何が利用できないかわからない方もいるので、我々も周知に努めていきたい。

- ・緊急事態宣言は解除となっても、不安感からか経済が再開しつつも人の動きは鈍い状況。当面は3密を防ぐことを徹底的にやっていくことが必要。昨日、80 業界が事業継続にかかるガイドラインを打ち出しているので業界ごとに勉強して、萩市をあげて感染者ゼロ、コロナゼロ安全のまちという観点で宣言を出すというのも一つだと思う。まだ、県境を越えないということで、当面は県内から動き始めるため、まずは県内向けに。段階に合わせて解除された地域、都市部、インバウンドなどへ。

- ・このような状況であるが、新たなニーズも生まれ、新たなビジネスチャンスになる。制約がある中で何ができるのかを考えていく必要。このような話を他業種や IT 事業者なども含めてできる場があればよい。

- ・デジタル格差を縮める支援が必要だと感じるが、ハードの支援は少ない。ハードとソフトをセットで提案していくべきだと思う。

- ・コロナ感染拡大防止対策の影響で小中高校まで休みとなっていて授業が遅れるのは必至だが、教員に協力してもらって「萩テレビ」を使い授業を録画放送すれば遅れは最小限に抑えられるのではないかと。

- ・今後の事業継続にマスクは必須のものになる。品薄状態も十分には解消されていないところもある。コロナ対策として今まで以上に衛生管理が問われ、また、事業所の評判にも影響を及ぼす可能性がある。接触しないという観点からは、キャッシュレス化の推進も感染防止策となる。

- ・バーチャル萩焼まつりでは、数万円、数十万円といった商品も出品されるということだと思うが、そうであれば特定物売買、代替性のないものということになる。画像など、しっかり細かいところまで見えるようにすることが作者の気持ちも盛り上がり、売上にもつながるのではないかと気がしている。

- ・萩焼といえば萩市を代表するブランド。後でのトラブルにならないように細心の注意を払う必要がある。

- ・今後、新たな生活様式という話について、当分の間、マスクは当たり前になってくると思っている、そのあたりの支援策も考えられないかという気持ちでいる。

- 終息後の対策について、従来から地域特産品に力を入れており、配送にかかる人的なコストや送料などの物流コストがネックになり取引を断念する事業者が多い。物流コストを軽減することで取引が増加し、地場産品が地域外で動きやすくなる。収束に向けての支援策として物流コストを軽減する支援策を検討してみてはどうか。